

促成ナスつる下げ誘引栽培の作業性評価と増収技術の開発 (B11)

(高知農技セ) 篠田翔真、永尾航洋、山崎浩実

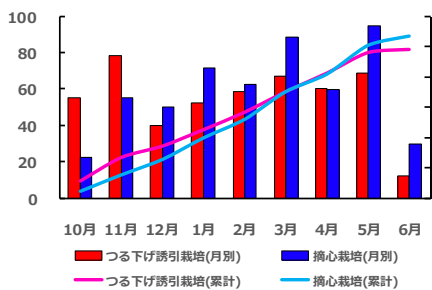
研究概要

近年、省力化技術としてナスにおいてもつる下げ誘引栽培が注目されており、生産現場でも試験的に導入が進んでいるが、目標どおりの収量を得られていない農家が多い。そこで、促成ナスつる下げ誘引栽培において作業性を評価するとともに増収技術を開発した。

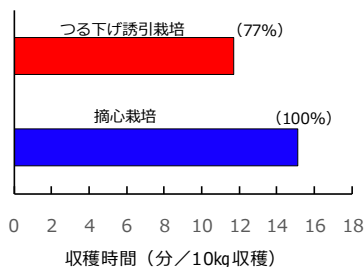


つる下げ誘引栽培(品種：土佐鷹)

●作業性の評価



収穫を除く作業時間の比較



収穫作業時間の比較

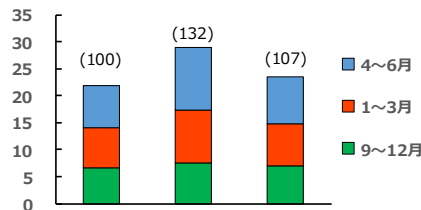
摘心栽培と比較して、つる下げ誘引栽培では、

- ・収穫を除く摘心、誘引、寝かせおよび整枝にかかる作業時間：全期間で**42.4時間削減**
- ・12月以降に効果が大きい
- ・収穫時間：**23%削減**

●増収技術の開発

つる下げ誘引栽培で、収穫サイズや側枝での収穫果数を比較した結果、

- ・1果120gで収穫する大果収穫区は、80gで収穫する1果収穫区に対して、**7%増収**
- ・側枝で2果収穫する2果収穫区は、側枝で1果収穫する1果収穫区に対して、**32%増収**



可販果収量の比較

応用範囲

春先の労働力不足で収量が減少している生産者や、作業の単純化が図れることから、雇用の多い大規模経営体に適する。

今後の展開

高知県農業担い手育成センターでさらなる改良を加えながら、実証展示を実施。現地農家でも実証し、普及拡大につなげる。